



平成 27 年 9 月 15 日

各 位

東 京 都 千 代 田 区 麴 町 三 丁 目 2 番 4 号
会 社 名 株式会社スリー・ディー・マトリックス
代 表 者 名 代表取締役社長 高村 健太郎
(コード番号: 7777)
問 合 せ 先 取 締 役 新 井 友 行
電 話 番 号 03 (3511)3440

**当社ペプチド技術を用いた「トランスフェクション剤 (核酸導入剤)」
に関する米国での特許取得のお知らせ**

当社が学校法人日本医科大学と共同で出願しておりました界面活性剤様ペプチド技術について、トランスフェクション剤（細胞への核酸導入剤）としての適用に関する特許が米国にて特許が成立いたしましたので、お知らせいたします。

【発明の名称】 Transfection agent（トランスフェクション剤）

【特許番号】 USP 9133484

【特許権者】 学校法人 日本医科大学、株式会社スリー・ディー・マトリックス

本特許は、界面活性剤様ペプチドを、腫瘍組織内に核酸を導入するためのトランスフェクション剤に関する特許で、腫瘍細胞における遺伝子発現制御に有用であることが示されております。当該分野に関しては、吉田大蔵 准教授（日本医科大学脳神経外科学）が界面活性剤様ペプチド技術の脳腫瘍への治療応用に関して研究成果を論文や学会で発表しております。また、当社は国立がん研究センターと共同で当該技術を応用した核酸製剤を開発し、治療抵抗性の乳がんに対する医師主導治験が開始されております。

細胞への核酸の導入に関する研究では、カチオン性ポリマーやカチオン性リポソーム等のカチオン性のトランスフェクション剤が広く利用されていますが、細胞に対する毒性が知られていません。細胞毒性が低くて且つ遺伝子発現の制御効率が良く、腫瘍へのより高い治療効果が期待されるトランスフェクション剤の候補に関して、現在も多くの研究が進められております。本特許に示された界面活性剤様ペプチドのトランスフェクション剤としての適用は、その細胞毒性の低さから、脳腫瘍を含む種々のがん治療における臨床使用が可能な核酸導入方法の一つとなります。

当社は今後も本特許を活用して研究開発を進め、有効な医療製品の開発を推進して企業価値の拡大を図ってまいります。

なお、現段階においては、本件による通期の業績予想への影響はありません。影響が生じる場合には速やかに開示させていただきます。

以 上